

## 3-2. 調査国（地域）の実態報告

### 1 アメリカ合衆国（NCSS）

ここでは、アメリカ合衆国（以下、アメリカ）の連邦（国）レベルでの選挙制度、教育制度を概観した後に、アメリカの社会科教育に影響を与えている National Council for the Social Studies（以下、NCSS）が発行した The College, Career, and Civic Life (C3) Framework for Social Studies State Standards: Guidance for Enhancing the Rigor of K-12 Civics, Economics, Geography, and History（以下、C3フレームワーク）と市民性教育の関係について報告する。

### 2 選挙権年齢（被選挙権年齢）と成人年齢

#### （1）選挙権年齢

現在のアメリカでは、表1の通り、18歳以上の合衆国市民に選挙権が与えられている。選挙権を行使するためには、有権者登録が求められる。選挙権年齢は、元々21歳以上であったが、1971年に憲法が修正され（修正第26条）、18歳以上となった。この背景には、ベトナム戦争の影響により、徴兵年齢が18歳であるのに対し、選挙権年齢が21歳であるのは不公平という議論があったことがある。

表1 アメリカにおける連邦（国）レベルの選挙制度

	選挙権年齢	被選挙権	任期等
大統領選挙	18歳以上	35歳以上かつ、出生による合衆国市民であり、選挙前に14年以上合衆国に居住	任期：4年
副大統領選挙	18歳以上	35歳以上かつ、出生による合衆国市民であり、選挙前に14年以上合衆国に居住	任期：4年
上院議員選挙	18歳以上	30歳以上かつ、9年以上合衆国市民権を有し、選出される州に居住	任期：6年（2年ごとに3分の1ずつ改選） 人数：各州2名ずつ計100名
下院議員選挙	18歳以上	25歳以上かつ、7年以上合衆国市民権を有し、選出される州に居住	任期：2年 人数：435議席が人口に基づき50州に分配される。

（報告者作成）

#### （2）被選挙権年齢

連邦（国）レベルの選挙の被選挙権は、表1の通りである。被選挙権には、年齢だけではなく、市民権や居住地が関わっている。

#### （3）成人年齢

先述の選挙権年齢の改正を受け、1970年代より多くのアメリカの州では、成人年齢が18歳となっている（ネブラスカ州、アラバマ州は19歳、ミズーリ州は21歳）。

### 3 社会系教科目の構造

#### （1）アメリカの学校教育制度

アメリカの学校教育制度は、州、学区、学校により多様なものとなる。その理由の一に、

ナショナル・スタンダードに法的拘束力がないことから、連邦政府ではなく、州に教育の決定権があることがあげられる。そのため、州がスタンダードを作成し、学区や学校単位でカリキュラムが作成される等、地方分権的な教育が行われている。また、義務教育の年限についても、州によって9～12年と違いがある。初等・中等教育の学校制度は、日本でも見られる6-3-3制に加え、6-6制、6-2-4制、8-4制、4-4-4制等がある（義務教育の年限をはじめ、様々な教育制度の違いがあるため、州ごとの学校教育制度の特色や、社会系教科目の構造・目標・内容等のいくつかの具体については、本報告書における各地域の報告を参照いただきたい）。このように、アメリカでは、地方分権を行い多様な教育を実施することで、州の意向を尊重し、州や学区の人種、民族、社会階層等の違いに対応しようとしている。

州がスタンダードを作成する際には、学会や教育団体作成の教科等に関するスタンダードやフレームワークを参考にする場合がある。後述するように、本報告が焦点を当てるC3フレームワークも、州のスタンダードに影響を与えている。

近年では、統一テスト実施、多くの州がCCSS（Common Core State Standards）を導入する等、標準化の動きもある。

## （2）社会系教科目の構造

アメリカの社会科教育に影響を与えているC3フレームワークにおける、社会系教科目の構造を概観していく。

C3フレームワークは、学習者が大学、キャリア、市民生活に備えた知識やスキルの習得と応用をできるように、州の既存の社会科スタンダードをアップグレードするための指針となることを念頭に作成された。そのため、このフレームワークが何かしらの拘束力をもつわけではなく、あくまで、州がスタンダードを作成する際の指針としての役割をもつ。C3フレームワークの作成の目的として、NCSSのHPでは、a) 社会科分野の厳格さを強化すること、b) (学習者が) Engaged Citizen となるための批判的思考、問題解決、参加スキルを身につけること、c) CCSS に学術的なプログラムを適合させること、が示されている<sup>1</sup>。また、アメリカの51（50州+コロンビア特別区）のスタンダードの内、32州のスタンダードがC3フレームワークについて言及し、その内27州がC3フレームワークのアイデアを採用し、1州はC3フレームワークを全面的に採用していると分析した研究がある（Ryan et al., 2021）ことから、C3フレームワークは、一定の影響力をもっていると考えられる。

C3フレームワークは、表2の4つの次元（Dimension）により構成される。C3フレームワークに基づく授業は、探求に焦点を当て、この探究の中で、概念やツールをレンズのように適用し、最終的には、学校の教室からより大きな公共のコミュニティ等、様々な場で「情報に基づいた行動をとる（Taking Informed Action）」ことを目指す。この一連の行為、また、この中で得られる知識と経験が市民、あるいは市民的生活（civic life）にとって重要なものと考えられており、K-12の流れを踏まえた学習が構想されている。「情報に基づいた行動」は、市民参加の場としても捉えられ、これを組み込んだC3フレームワークに基づく授業は、探究的なプロジェクト型学習の性格をもつ。

表2 C3フレームワークの4つの次元

次元1： 問いの作成と探究の計画	次元2： 各学問の概念やツールの適用	次元3： 情報源の評価と証拠の使用	次元4：結論を伝え、情報に基づいた行動をとる
問いの作成と探究の計画	市民学 (Civics)	情報の収集と評価	結論を伝えたり 批評したりする
	経済学		
	地理学	証拠を用いて 主張を作成する	情報に基づいた行動をとる
	歴史学		

(NCSS. (2013)., より報告者作成)

表3 Inquiry Design Model (IDM) のテンプレート

Inquiry Design Model (IDM) Blueprint™			
Compelling Question			
Standards and Practices			
Staging the Question			
Supporting Question 1	Supporting Question 2	Supporting Question 3	
Formative Performance Task	Formative Performance Task	Formative Performance Task	
Featured Sources	Featured Sources	Featured Sources	
Summative Performance Task	Argument		
	Extension		
Taking Informed Action			

(<https://c3teachers.org/wp-content/uploads/2015/06/Inquiry-Design-Model-Template.docx>) (最終アクセス日 2023年2月28日) より報告者作成)

各次元には、K-12の進路の提案 (Suggested K-12 Pathway) として、4段階 (K-2、3-5、6-8、9-12) の指標が設けられK-12の通した学習が考えられている。次元2「各学問の概念やツールの適用」には、「市民学 (Civics)」、「経済学」、「地理学」の4つの分野に、サブカテゴリーが設定され、この各サブカテゴリーに先述の4段階の指標が設けられている。また、この4つの分野以外に、付録で、「心理学」、「社会学」「人類学」、捕捉 (2017年) で「宗教学」に触れ、これらをレンズとした探究的な学習も考えられている。また、

C3フレームワークでは、「多様性の尊重」や、「市民としての責任と権利」等、本報告書で示される5つのテーマに関連する事項も扱われている。

このC3フレームワークで示される探究に焦点を当てたカリキュラムと教材を作成するためのアプローチが **Inquiry Design Model (IDM)** である(表3)。先述のように、C3フレームワークに基づく授業は、問いの作成、探究、「情報に基づいた行動」という一連の流れを踏まえたプロジェクト型活動となる。これを踏まえ、IDMは、**Compelling Question**という大きな問いと、これを支える **Supporting Question** という2つの問いから構成され、この探究の成果を「情報に基づいた行動」につなげている。

#### 4 公民系教科目の教育目標・教育内容

##### (1) 目標

C3フレームワークにおいて、例えば、「市民学 (Civics)」は、「人々が社会の統治にどのように参加するかを研究する学問」とされ、これをレンズとした探求が考えられている。

##### (2) スタンダード

ここでは、C3フレームワークにおけるいくつかの指標を例にその構造を概観する。例えば、「市民学 (Civics)」は、「市民的・政治的制度」、「参加と熟議：市民の美德と民主主義の原則の適用」、「プロセス、ルール、法」のサブカテゴリーに分岐し、それぞれに複数の項目と先の4段階の指標が設定され、これをレンズとしK-12を通した探究が構想されている。表4は、「市民学 (Civics)」のサブカテゴリーの内、「参加と熟議：市民の美德と民主主義の原則の適用」の4段階の指標を示したものである。この表からも、学年が上がるにつれ、参加の場や、視点が広がるよう、指標が設定され、K-12を通した学習が想定されていることが分かる。

また、次元4「情報に基づいた行動をとる」に対しては、表5のように指標が設けられている。ここでも、行動の場やそこでの視点が広がるよう指標が設定されている。このように、表2の4つ次元と、表4、5等の指標に基づいたK-12での学習を通して、問いの作成、探究から得られた情報に基づいて行動ができることが目指されている。

表4 大学、キャリア、市民の準備のための K-12 年度の進路の提案  
次元2「参加と熟議」(Civics)

2 学年の終わりまでに	5 学年の終わりまでに	8 学年の終わりまでに	12 学年の終わりまでに
学生は、個人または他者とともに...			
D2.Civ.7.K-2. 学校という場に参加する際に、市民的な美德を適用する <sup>2</sup> 。	D2.Civ.7.3-5. 学校という場で市民的な美德と民主主義の原則を適用する。	D2.Civ.7.6-8. 学校や地域社会の場で、市民的な美德と民主主義の原則を適用する。	D2.Civ.7.9-12. 他者と協働する際に、市民的な美德と民主主義の原則を適用する。
D2.Civ.8.K-2. 平等、公正、正当な権限やルールの尊重などの民主主義の原則について述べる。	D2.Civ.8.3-5. 政府、社会、地域社会を導く中核的な市民的な美德と民主的原則を識別する。	D2.Civ.8.6-8. アメリカ合衆国の建国文書に含まれる思想や原則を分析し、それらが社会、政治システムにどのような影響を与え	D2.Civ.8.9-12. 異なる文脈、時代、場所において、市民の美德を促進し、民主主義の原則を実施する社会的・政治的システムを評

		ているかを説明する。	価する。
D2.Civ.9.K-2. 合意された議論のルールに従い、グループでアイデアを述べたり、意思決定したりする際には、他の人に注意を払いながら対応する。	D2.Civ.9.3-5. グループとして意思決定や判断を行う際には、熟議プロセスを利用する。	D2.Civ.9.6-8. 様々な場で様々なグループが使用している熟議プロセスを比較する。	D2.Civ.9.9-12. 複数の場で適切な熟議プロセスを使用する。
D2.Civ.10.K-2. 自分の視点と他の人の視点を比較する。	D2.Civ.10.3-5. 市民的な問題について、自分や他者の視点の根底にある信念、経験、観点、価値観を識別する。	D2.Civ.10.6-8. 政府や市民社会について人々が課題や問題に述べる際に、個人の関心や見解、市民の美德、民主主義の原則との関連性を説明する。	D2.Civ.10.9-12. 市民の美德、民主主義の原則、憲法上の権利、人権の適用において、個人の関心事や見解が与える影響や適切な役割を分析する。

(NCSS. (2013)., p33 より報告者作成)

表5 大学、キャリア、市民の準備のための K-12 年度の進路の提案  
次元4「情報に基づいた行動をとる」

2学年の終わりまでに	5学年の終わりまでに	8学年の終わりまでに	12学年の終わりまでに
学生は、個人または他者とともに...			
D4.6.K-2. ローカル、地方、グローバルな問題とこれらの問題に対する人々の取組を識別し、説明する。	D4.6.3-5. 様々な時代や場所で、ローカル、地方、グローバルの問題に取り組む際に、人々が直面した課題や創造した機会について、学問的な概念を用いて説明する。	D4.6.6-8. 特定の問題が時間の経過とともにローカル、地方、グローバルレベルでどのように顕在化しているかを分析するために、複数の学問分野のレンズを用い、その特徴と原因、問題に対処しようとする人々が直面する課題と機会を識別する。	D4.6.9-12. ローカル、地方、グローバルな問題の特徴と原因、複数の文脈におけるそのような問題の事例、および時間と場所を超えてこれらの問題に対処しようとする人々が直面する課題と機会を理解するために学問的、学際的なレンズを用いる。
D4.7.K-2. ローカル、地方、グローバルの問題を解決するために行動を起こす方法を識別する。	D4.7.3-5. ローカル、地方、グローバルの問題に対処するために、生徒や他の人々が単独または協力して取ることができるさまざまな戦略やアプローチを説明し、その行動の結果を予測することができる。	D4.7.6-8. 可能な範囲での権力の行使、戦略、期待される結果を考慮して、ローカル、地方、グローバルの問題に対処する行動を起こすための個人的および集団的な能力を評価する。	D4.7.9-12. 自己省察、戦略の識別、複雑な原因分析に携わることで、ローカル、地方、グローバルの問題に対処するための個人、集団的の行動の選択肢を評価する。
D4.8.K-2. 教室での行動を決定し実行するために、意見聴取、合意形成、投票の手続きを用い	D4.8.3-5. 教室や学校における市民の問題について決定し行動するために、熟議や民主的な	D4.8.6-8. 教室や学校、また学校外の市民的文脈の中で、意思決定や行動を起こすために、	D4.8.9-12. 教室や学校、学校外の市民的文脈の中で、意思決定や行動を起こすために、熟議

る。	手続きを用いる。	熟議や民主的な手続きを用いる。	や民主的な戦略や手順を適用する。
----	----------	-----------------	------------------

(NCSS. (2013).、 p62 より報告者作成)

### (3) 評価

C3 フレームワークに基づく授業では、表3のように、探究的な学習の中で、Supporting Question に対する形成的なパフォーマンスタスクが設定され、これに基づく形成的評価 (Formative Assessment) が考えられている。さらに探究の成果の評価として、総括的なパフォーマンスタスクに基づく総括的評価 (Summative Assessment) を行うことが考えられている。

## 5 他教科・他領域等における教育目標・教育

例えば、先述した CCSS の国語 (英語) では、大学やキャリアに備え「読む」「書く」「話す・聞く」「言語」の領域の基準が設定され、C3 フレームワークでは、社会系教科目における探究の中で、これらの能力を育成するために CCSS との接続を図っている。特に、C3 フレームワークでは、各次元と CCSS の関係について述べられており、社会科の中で、リテラシーを育成できるようにしている。

## 6 特記事項

「C3 TEACHERS」〈<https://c3teachers.org/>〉という HP では、C3 フレームワークを基に教師が子どもの学習を支援できるよう、IDM のテンプレートや授業モデル等の様々な情報が公開されている。

また、C3 フレームワークは、NCSS の HP で閲覧とダウンロードが可能である (〈<https://www.socialstudies.org/standards/c3>〉)。これに加え、NCSS の HP では、C3 フレームワークの関連書籍、資料も紹介されている。

## 7 日本への示唆

C3 フレームワークに基づく、K-12 を通して各学問の概念やツールをレンズとした探究と行動を組み込んだ社会科授業は、市民的資質の育成と今日の日本で目指される主体的・対話的深い学びの実現を目指す上でも示唆的であると考えられる。

また、現代の社会は、情報化が進む反面、様々な情報が氾濫している。情報の中には真偽不明なものも含まれ、市民は、この情報を取捨選択し、行動につなげることが求められる。この取捨選択を行うためには、そのための基準や見方を養う必要がある。こうした状況に対しても、「情報に基づいた行動」が取れるよう、探究的な学習を志向する C3 フレームワークは示唆的である。

## 註

- 1 College, Career, and Civic Life (C3) Framework for Social Studies State Standards: Guidance for Enhancing the Rigor of K-12 Civics, Economics, Geography, and History (〈<https://www.socialstudies.org/standards/c3>〉) (最終アクセス日 2023 年 2 月 28 日) .

2 C3 フレームワークでは、ここでの「市民の美德」として、誠実さ、相互の尊重、協力、多角的な観点への注意を、「民主主義の原則」として、平等、自由 (freedom、 liberty)、個人の権利の尊重、熟慮が例に挙げられている。

#### 主要参考文献

- National Council for the Social Studies (NCSS). (2013). *The College, Career, and Civic Life (C3) Framework for Social Studies State Standards: Guidance for Enhancing the Rigor of K-12 Civics, Economics, Geography, and History*, Silver Spring, MD: National Council for the Social Studies.
- Ryan New, Kathy Swan, John Lee and S.G. Grant. (2021). The State of Social Studies Standards: What Is the Impact of the C3 Framework? *Social Education*, 85(4), pp.239–246.

木下祥一 (環太平洋大学)